

第 103 回 火力専門委員会 構造分科会 議事録

- I. 日 時：2019 年 2 月 8 日（金）13 時 30 分～16 時 50 分
- II. 場 所：日本機械学会 第 3・4 会議室
- III. 出席者：飯田（東電 HD）、茂山（電中研）、西田（MHPS 長崎）、芝（関西電力）、
西野（配管技術研究協会）、田村（MHPS 日立）、黒川（KHI）、関根（IHI）、
服部（富士電機）
- 代理者：なし
- オブザーバー：なし
- 欠席者：太原（東芝）、豊嶋（MHPS 呉）、松浦（中部電力）
- 事務局：原

IV. 配布資料

- 103-1 第 102 回構造分科会議事録（案）
- 103-2 構造分科会委員名簿
- 103-3 第 86 回火力専門委員会議事録（案）
- 103-4 第 88 回規格委員会議事録（案）
- 103-5 火力専門委員会書面投票 No.80(第Ⅲ章 ボイラ 意見対応による修正案)結果報告
- 103-6 その他報告（委員会のペーパーレス化について）
- 103-7 用語集（映写）…今回はなし
- 103-8-1 第Ⅲ章ボイラ 書面投票 No.80 投票意見と対応案
- 103-8-2 第Ⅲ章ボイラ 書面投票 No.80 の意見対応を反映した修正案
- 103-9-1～ 第Ⅴ章配管 新旧対比表（未確認のもの）
- 103-10 第Ⅳ章関係 …今回はなし
- 103-11 審議履歴表

V. 議題

1. 前回議事録確認 [資料 103-1]
前回議事録（案）の確認を行ない、議事録案は承認された。
2. 分科会委員・役員の承認 [資料 103-2]
退任委員、新任委員候補、再任委員候補はなし。
3. 報告事項 [資料 103-3]
 - (1)火力専門委員会報告
11 月 26 日開催の第 86 回火力専門委員会の主要項目が報告された。
 - 火力専門委員会委員、各分科会委員の承認。
 - 第 102 回(11/8)構造分科会報告
 - ・第Ⅲ章ボイラ改訂案の書面投票 No.76 の意見対応を反映した修正案の審議。
 - ・レビュー票の審議、新旧対比表の確認。
 - ・第Ⅳ章、第Ⅴ章の改訂手続きに係る今後の予定。

○審議結果報告

- ・発電用火力設備規格での ALLOY141 の規格化が提案され、審議の結果 ALLOY141 の規格化を進めることと、本材料は許容引張応力値等が未策定であることから、材料専門委員会に許容引張応力値等の策定の依頼をすることが承認された。
- ・規格委員会書面投票 No.399 (第Ⅵ章 非破壊検査 改訂提案) の意見対応状況の説明。
- ・火力専門委員会書面投票 No.77 (第Ⅶ章 溶接施工法・溶接技量 改訂提案) の意見対応について、意見対応案が了解され意見対応を反映した修正案が軽微な技術的な修正として承認された。
- ・規格委員会書面投票 No.410 (第Ⅱ章 材料改訂提案) の意見対応状況の説明。
- ・火力専門委員会書面投票 No.76 (第Ⅲ章 ボイラ) の意見対応による修正案について、あらたな追加修正箇所などについて説明があった。

(2) 規格委員会報告

[資料 103-4]

12 月 20 日開催の第 88 回発電用設備規格委員会の主要項目が報告された。

- ・火力専門委員会(11/26 開催) 報告
- ・発電用火力設備規格詳細規定 (201X 年版) Ⅶ章 溶接施工法・溶接技量 の改訂提案

(3) 火力専門委員会書面投票 No.80(11/27~12/27) 結果報告

[資料 103-5]

火力専門委員会書面投票：No.80 「発電用火力設備規格 詳細規定 第Ⅲ章ボイラの火専書面投票 No.76 の意見対応による修正案」の承認の火力専門委員会書面投票結果が報告された。賛成票が 2/3 以上あり、反対票がなかったため可決となった。意見対応は、1 月 8 日に完了。

(4) 委員会のペーパーレス化

[資料 103-6]

昨年 11 月に開催された規格委員会幹事会において、委員会のペーパーレス化を進めていく方針が確認されたことが報告された。また、12 月 20 日開催の規格委員会の午前中の部において、タブレット PC (画面 10inch 程度) を用いたペーパーレス化の試運用が行われたことが紹介された。

4. 審議事項

(1) 用語集の確認

新たな追記・変更箇所はなかった。

(2) 第Ⅲ章改訂案の書面投票 No.80 の投票意見を反映した修正案について [資料 103-8]

西田幹事が、資料に基づき 1 月 8 日に完了した書面投票 No.80 の意見対応と意見対応を反映した修正案について説明し、以下について確認した。

- 意見対応を反映した修正案について、次回の火力専門委員会に編集上の修正として提案して承認を得る。
- 今回の分科会に準備が間に合わず提示されていない新旧対比表の確認は、分科会三役に一任とする
- 火力専門委員会に提案する資料は、変更箇所のみとする。カンマの半角などについては代

表箇所のみとし、それ以外の箇所については要求があった場合に電子データを見せられるよう、準備しておく。

- 火力専門委員会で承認されれば、3月20日開催の規格委員会に第Ⅲ章ボイラの改訂提案を行う。

(3) 第Ⅴ章のレビュー票・新旧対比表の確認

第Ⅴ章の新旧対比表の内、ダブルチェック結果の反映が完了しているものの確認を行った。なお第Ⅴ章は、5月末頃開催見込みの火力専門委員会において提案することを目標とする。このため、第Ⅴ章のダブルチェック結果の反映をメールベースで優先的に行うことを確認した。ダブルチェック結果の反映が完了したものは、新旧対比表を作成する。

1) APPENDIX F～J (MHPS 長崎)

[資料 103-9-1]

○APPENDIX G

- eqs、Table、Chartなどを、日本語にする方向で見直す。
- 単位の欄でSIとUSで逆になっているものが有るので正しくしたうえで、US単位の欄は削除してSI単位のみとする。

○APPENDIX Gの初めのところ

- 第Ⅴ章 → 本章

2) 119～121、APPENDIX B～C (富士電機)

[資料 103-9-2]

ダブルチェックの反映を確認する。

3) 127、APPENDIX IV (MHPS 日立)

[資料 103-9-3]

○127 全般：左側の欄も変更箇所は赤字・下線とする。

改訂内容の「変更なし」は記載しない。

「、」 → 「,」

○127.2.1

- 改訂内容は、ASME改訂の反映かどうか確認する。
- 化学分析 → 化学成分とする。(chemical analysisだが、内容から判断。)
- 改訂案の下線の後の「フェライト鋼を溶接するオーステナイト鋼に対し以下に指定」が重複して記載されている(削除漏れ)ので削除する。

○127.3

- 27.3 → 127.3
- (A.4)の「ボーリング加工」は「内径削り」に表現を見直す。
- (B)は変更が無いので、改訂内容の欄の「表現の見直し」を削除する。
- (E)の「管もしくはチューブの外径を2.03mmを超えないこと。」は、ASME SI値の有無を確認するとともに、表現を見直す。(例えば、「…外径より2.03mmを超えて大きくないこと。」など。)

○127.4.2

- ・(B.1)の前の余計な「」を削除する。
- ・(B4) 1mm は、1.0mm かどうか確認する。(C.3 と同じ可能性)

○127.4.2 (C.3)

- ・旧版の「1mm」と改訂案の「1.0mm」は、赤字・下線とする。また、改訂内容が ASME の SI 値採用であれば、それを改訂内容欄に記載する。
- ・「断面」は、左右とも見え消しになっているので、見直す(削除)。

○127.4.8(A)

改訂案の下線部分の内容が分かりづらいので、見直す。

○127.4.8(B)

tc 他の記号のフォントをイタリック体にする。

○127.4.8(D)～(F)など

補強当て板、当て金、補強当て金などについて、表現の統一を考える。

○127.4.11

- ・浅割れ …… より良い表現を検討する。
- ・最後の2行がだぶっているようなので、削除する。

○127.5.3(A)～(A4)

- ・内容がこれで良いか確認する。
- ・「。」がある箇所とない箇所があるので統一する。

○APPENDIX IV

- ・変更は項目番号の見直しのみだが、ダブルチェック結果とその反映有無について確認する。

4) 123～126、APPENDIX D、APPENDIX JA (東電 HD) [資料 103-9-4]

○123.2.2

- ・引用する項目番号の後に「項」を追記する。

○124.4、124.5

- ・(ねずみ) 鋳鉄および可鍛鋳鉄を削除して良いかを再度確認する。

○124.6

- ・FCD400,450,500,600 が JIS の表に含まれているか確認する。

○表 D-1 (資料 13 ページ)

- ・3.3 と t の間は少しあける。3.1 と t の間も同様。下付き記号の位置に差が出ないよ

うに調整する。

○図表 D-1、D-2、図 D-1

・印刷位置が大きくずれているので調整する。

5. 次回開催予定

開催日時： 5月17日（金） 13時30分～17時

（会議室の都合により、5月15日から変更した）

場 所：日本機械学会 3・4会議室

以 上